



高 鹿児島県立川辺高等学校
創立百二十周年記念式典
〔式場〕体育館

創立120周年記念式典当日の朝日に輝く正門

第46号

題字 西 春彦 著

○発行所 川辺高等学校東京同窓会

○発行日 令和4年10月31日

○編集発行人 森山昭利

○印刷所 株式会社 盈進社 ☎03(3262)3471

巻頭言

第四十六東京同窓会総会・懇親会

3年ぶりに開催しました。令和4年6月4日(土)ホテルグランドヒル市ヶ谷にて開催し、51名の参加者の皆さんが久しぶりのリアルの対面



総会の全体会場・森山会長の挨拶

で大いに楽しんでいました。そして開催後も特に感染等の問題が起こる事もなく終了することができました。コロナ禍で毎回開催するかどうかの検討をしましたがリスクが大きくなる連続中止という決定でした。

このコロナ禍で多くのイベントの開催が中止されてきましたが、今年は幸いコロナ禍も少し落ち着き、開催を望む声も多く上がり始めていました。ただし、まだまだリスクはありますので様々な状況を想定し、例年と大きく内容を変えて開催することとしました。ホテルと協議し万全の感染対策を行なっていくこととしました。入り口では全員検温をさせていただき、ひとつの円卓には5名までとし各席の間には透明の仕切りを置いた状況です。さて、会についてですが、



大平顧問の乾杯のご発生

会の冒頭では、亡師亡友に対して、さらに本会の役員を長年努めてご尽力いただきました元副会長の大坪剛様がこの同窓会の直前にお亡くなりになられたという悲報があり、参加者全員で黙祷を捧げました。

その後、森山会長を議長として総会の議事に移り、森山会長からご挨拶と母校の現状のご報告がありました。続いて会務報告、会計報告、会計監査報告が行われ、参加者全員から異議なく承認されました。

総会の終了後、懇親会に移りました。懇親会の冒頭に大平顧問による乾杯のご発声の後、会場では参加者

皆さんが再会を祝い、それぞれの席で歓談が進んでいきました。会場・各自のスペースにも余裕があり、懇親会の時間も余裕があったため、今年と同級生同士だけではなく、例年以上に幅広い年代間の会話ができていたようです。

会の終盤の新旧校歌の斉唱は、コロナ感染防止対策のため中止しました。会場には新旧の校歌を流し皆で聞いた後、峯吉副会長による閉会のご挨拶、そして一本締めも参加者で小さな声で締めて、第46回東京同窓会・懇親会は閉会となりました。

参加者の皆様からは、開催してよかった、参加できたよかった、楽しかったなどの声がたくさん聞かれました。

コロナ禍が落ち着き、流行がなくなることを祈りつつ、来年も開催し多くの皆様の笑顔を見ることができればと思っている次第です。

東京同窓会会員の皆様、ご健康に留意してお過ごしください。そして来年の開催を楽しみにしてください。例年通りの多くの会員の、元気なご参加をお待ちしています。

内村 哲也(昭和五十年卒)





同窓会活動とウイズコロナ

東京同窓会会長 森山 昭利
昭和41年卒

令和2年初頭に始まった新型コロナウイルス騒ぎは、一向に収まる気配もないままに令和4年を迎えてしまいました。川辺高校東京同窓会(以下「当会」)でも、令和2年の総会・懇親会の中止に続き、令和3年の総会は初めての書面表決方式での開催を余儀なくされました。また、母校をはじめ当会と関係の深い関東在住団体の多くで、定例の総会や行事を中止するところが出るなど、その影響が多方面に及んだのはすでに皆さまご承知のとおりであります。

こうした厳しい環境下でありながら、当会の主要活動の一つである会報誌発行は休むことなく、令和3年秋にも「神戈陵第45号」を刊行して、会員の皆様にお届けすることができたのは、関係者一同の当会活動への積極的な参加のおかげでした。

一方でもう一つの主要活動である総会・懇親会に関して、令和4年の開催をどうするかという点については、役員はじめ事務局のみんなが頭を悩ませていました。年初の段階ではコロナの感染状況は依然として厳しく、1月に予定していた役員会も開催を見合わせるほどでした。しかしながら、6月の開催予定で仮押さえしていた会場(ホテル)や準備期間等から時間的な余裕はそれほど無く、幸いコロナの感染にわずかながら好転の兆しも見え始めたため、2月19日の役員会で開催を決議し、3月19日に総会案内状を送送することになりました。

コロナを念頭に十分な感染対策を講じるとともに、参加者が全く読めないため、初めて出欠のハガキも同封することとしました。

あわただしい準備作業ではありませんが、開催直前の5月末時点での参加回答者数は56名となり、最悪30名くらいを覚悟していた事務局としても安堵した次第です。会場のホテルと打ち合わせた結果、懇親会の食事は個別提供に限定し、いつも人気となっていたツケアゲ、刺身こんにやくなどの大盛り・取り分け食材はあきらめました。また、受付前の検温と手指消毒の実施に加え、各テーブル間のスペースをかなり広めにとり、テーブルごとの人数も6人以下に絞ったうえ、遮蔽用のアクリル板も設置しました。

当日になって都合が悪く欠席する会員がでたものの、総勢51名の参加者によって総会は順調に進行し、続く懇親会は極めて和やかな雰囲気の中で、参加者の皆さんが広い会場を行き来しながら楽しんでいました。これもひとえに運営関係者の献身的な準備作業と、参加人数が全く読めない中で参加人数20名から200名程度まで柔軟に対応できる会場プランを提供してくれた、ホテルグランドヒル市ヶ谷のご協力の賜物と感謝する次第です。

ところで、総会の後始末が終わったあと7月になると、再びコロナの感染が爆発

的に増え始め、ついに第6波を上回る第7波となりました。結果的には、ちょうど感染の谷間で開催したことになりますが、令和5年以降の同窓会活動に関しては、このような事態にも備えることが重要だと考えさせられました。

6月半ばに開催した役員会(反省会)でも次のような意見が出されました。

1. 総会・懇親会の開催を毎年でなく、隔年(2年に一回)開催に変更
2. 会報誌の発行も隔年に変更
3. 受付業務の簡素化と接触機会軽減のために総会参加費を事前払込制に変更

この日の役員会では結論を出せませんが、現在の環境下では検討に値するのではないかという意見が大半でした。

1. については会則に定められているので、総会での議決が必要となりますが、昨年改正された会則第16条の6項以降

に、「書面表決による総会開催」について定めているので、隔年で書面表決方式によって開催することは可能と思います。

2. については会則に定めは無いので、会員からの寄稿や発行費用にかかわる財務状況などで、納得のいく理由がそろえば隔年発行に変更することはできそうです。

3. については、払い込んだ後の欠席に関して返金の方法、事前連絡なしで直

など検討すべき課題が指摘されました。これらの問題以外にも、減少傾向が続く当会の会員数や活動への参加者、財務状況の改善などに対応を迫られています。また、母校の入学者減(各学年1クラスも現実味)による卒業生減、その結果として将来的な新規加入会員の減少など、当会の長期的なあり方も問われてくると思います。

いずれの問題にも画期的な解決策が見当たらない現状では、コロナ禍も一時的な問題ではなく、インフルエンザのようにいつでも発生しうるものとして、うまく付き合いつながりながら諸課題に対応して行くしか無さそうです。

当会の活動に皆様からご協力・ご参加をいただくことが、運営関係者にとり何よりの励みとなりますので、今後とも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「神戈陵尚学舎」

神戈陵尚学舎は、母校創立100周年記念事業で同窓会から母校に寄贈されました。今では母校学生たちの自習、先生との進路指導の相談の場など活動の拠点になっています。



同窓会新会長に就任して

同窓会会長
昭和48年卒 高田 政雄

東京同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より同窓会活動に格別のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度、森田剛前会長の後を受けて、会長の重責を仰せつかりました、昭和四十八年(二五回)卒業の高田政雄です。川辺高校の歴史と伝統の重さを考えますと、改めて身の引き締まる思いです。母校と同窓会発展のため、微力ではございますが一生懸命務めさせて頂きますので宜しくご指導の程お願い申し上げます。

また、コロナ禍において本部同窓会を始め各地区同窓会も縮小した中で、総会開催や中止の地区もあり、皆様とお会いできないことが非常に寂しい気持ちです。

さて、創立一二〇周年記念式典はコロナの影響により一年遅れて昨年の十一月二十日に規模を縮小し、亡師亡友慰霊祭と記念式典のみの開催となりました。また、記念事業についてはITC関連事業、育英奨学事業、学習環境事業の3つの事業に皆様の募金を活用させて頂いて進めております。事

業計画推進に対しまして東京同窓会をはじめ各地区同窓会の皆様のご支援とご協力に心から感謝申し上げます。

私も二〇一六年に東京同窓会に参加しましたが、東京同窓会は参加者も多く各種施行を凝らし活気に溢れた地区同窓会が開催されている事にびっくりしました。それだけ同窓会に対する思いが強く組織もしっかりしていることを実感させられました。しかし、各地区同窓会の悩みは、若い人達の同窓生の把握が出来ていないことから参加者も固定化しまっている事が本部同窓会においても共通した悩みです。そこで、今回の一二〇周年事業の取組みの一つとして「同窓会名簿」の作成に取組みました。この名簿の活用により少しでも参加者拡大に繋がればと思っておりますので活用して頂ければと思います。本部同窓会においても委員会を立ち上げて現在取組んでいるところです。

本部同窓会としましては各地区同窓会と連携を密にしながら活動を活性化し同窓会の発展に取組んでまいりますので今後とも宜しくお願いいたします。最後に東京同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げます。



「地域になくってはならない学校を目指して」

川辺高等学校校長 前田 裕一

今年も、新型コロナウイルスの影響で、六月の東京同窓会に森田本部同窓会長と一緒に参加できず、大変残念に思っております。加えて、昨年十一月の創立百二十周年記念式典について御報告と御協力に対する御礼を申し上げます。新しい生活様式のもとで、昨年の夏季東京オリンピックや、今年の冬季北京オリンピックが開催されました。熱戦に一喜一憂し、真摯なアスリートの姿に感動を覚えました。今年も、九州より先に東京が梅雨入りするという大変珍しい年となりました。ここ十年以上梅雨が明けずと、猛暑日や熱帯夜が続いていますので、体調管理に十分気をつけながらお身体を御自愛下さい。

さて、最近の学校の様子ですが、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、学校行事を開催しようと取り組んでいます。しかしながら、PTA総会は直前の急激な感染拡大を考慮し、書面決議としましたが、その他の遠足や神戈陵祭文化祭は保護者の観覧の制限は行いながらも開催出来ました。部活動においては、地区大会や県大会はすべて実施され、8月に行われる全国高校総

体に、「なぎなた部」が、団体・個人演技のすべての部門(香川県開催)に出場します。また、地元の伝統行事の祇園祭は、今年は縮小開催となりましたが、川辺高校は「総合的な探究」の中で地域連携を取り入れた活動を推進しています。私としても、この地域との連携を深め、「郷土を知り、郷土を学び、郷土を愛する」ような川辺高校生を育てたいと思っています。具体的には、南九州市観光協会と共同で「ふりんの小径」などの地域の催し物や川辺通り会が企画した「かわなべ軒先夜市」などに、大勢の生徒たちがボランティアとして準備、運営や演奏などに参加しています。今後も、新たな地域連携の場を広げ、「地域になくってはならない高校」として川辺高校が存在し、生徒の「夢の応援団」として、教職員と同窓会員とが協力出来るように、学びの場を広げていく所存です。

平素から東京同窓会の皆様には、本校の教育活動に対し深い御理解と多大なる御支援を賜っており、厚く御礼を申し上げます。併せて東京同窓会の今後ますますの御発展を祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。

特 集

母校の創立百二十周年記念式典の誌上紹介

(編集部)

母校の創立百二十周年記念式典が、新型コロナウイルス感染症の影響で、一年遅れの令和三年十一月三十日に母校体育館で開催されました。当日の記念式典もコロナ流行の中感染防止対策のため、出席者を極力制限し規模縮小して開催されました。

この誌上では、本部記念事業実行委員会が発行した『創立百二十周年記念誌「神戈陵」とCD「夢の応援団」』はキミノミライにより『Jingaryo Damashi!』よりコンパクトに再編集した内容を、写真を中心で、東京同窓会会員の皆様にご紹介いたします。



初めに120年の歴史ある母校の沿革については、本部記念誌「神戈陵」にA4判で5ページにわたり詳細に整理されています。歴代校長の年譜も紹介されています。資料として要望される方は、コピーを配布させていただきますので、東京同窓会「神戈陵」編集部(副会長・峯苦稔三)までご連絡ください。

母校は、鹿児島県第四中学校として設立されました。創立日は、旧校歌にも歌われています。明治三十三年四月二十六日です。

それから戦後の学制改革により、昭和二十三年四月一日に鹿児島県立川辺高等学校が設立されました。その間、女学校や定時制(農業科・家庭科・別科の建築科)の併設や統合等大きな歴史が刻まれてきています。

校風は「神戈陵精神(魂)」に表現され、教育方針は校訓にある「自律・端正・積極・公德」の具現化と「知・徳・体」文武両道の調和のと

れた、創造性・実践力のある人材育成を目指してきました。そして、二万一千人を超える卒業生が排出され、各界でご活躍されています。

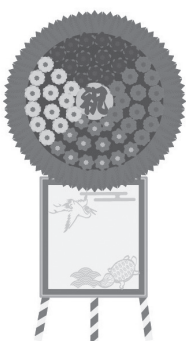
母校がこの伝統ある校風・校訓のもと、さらに新しい時代のニーズに合った新たな風も吹き込み、ますます発展していくことを願っています。



前田校長の式辞

「過去の主な記念事業の紹介」

- ① 二十五周年(昭和4年)「図書館落成式挙行」
- ② 五十周年(昭和25年)「校歌制定」
- ③ 六十周年(昭和35年)「プール落成」
- ④ 九十周年(平成2年)「神戈陵教育振興会基金」創設
- ⑤ 百周年(平成9年)「セミナーハウス神戈陵尚学舎建設」(3ページ写真参照)
- ⑥ 百十周年(平成22年)「全館冷暖房整備」
- ⑦ 百二十周年(令和3年)「IT技術を先取りして、一昨年よりクラス全員が同時にタブレット端末を使用した授業ができる環境を整備した。」(学校だより・生徒がタブレットを活用しています)



「百二十周年記念式典の式次第」

- 一、式 辞
 - ① 川辺高等学校校長 前田 裕一
 - ② 記念式典実行委員長 森田 剛
- 二、祝 辞
 - ① 鹿児島県知事 塩田 康一
 - 【代理】南薩地域振興局局長 大山 浩昭
 - ② 鹿児島県議会議長 田之上 耕三
 - 【代理】鹿児島県議會議員 田畑 浩一郎
 - ③ 鹿児島県教育委員会 教職員課人事管理監 徳留 俊郎
- 三、喜びのことば
 - 生徒会副会長 坂上 祈璃



「亡師亡友 慰霊祭」

神主の祝詞奏上、参列者のお祓い、各グループ代表による玉串奉奠がなされました。



「感謝状贈呈式」

今までに、母校および同窓会の発展にご尽力されました菊野光郎様・前野政美様・大坪健一様の三名の方に、感謝状が森田会長より贈呈されました。



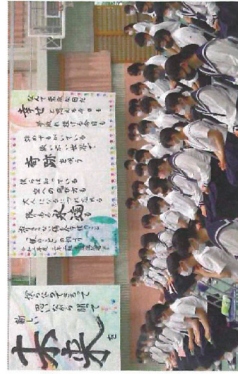
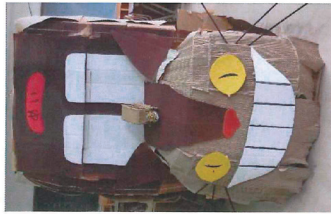
「記念文化祭」

演劇部・絵画部・書道部が渾身の作品を、披露しました。

「記念体育祭」

全校生徒が、赤軍・青軍・黄軍に別れ、「神戈陵」のスタンドを応援陣地として、各軍の団結立て看板のもと、徒競走・リレー・応援合戦などの競技に、青春のエネルギーを思い切り燃焼させました。

記念文化祭



記念体育祭

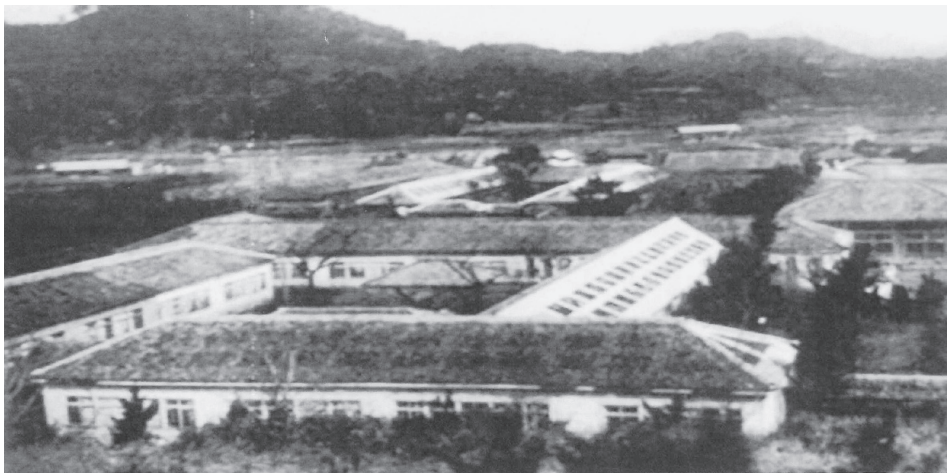


特集

母校の校歌と校舎で巡る今昔

作詞 佐藤 六次
作曲 渡邊 彌蔵

- 一、高千穂笠沙神代より
偉績かよふ三州の
久遠の光身に浴びて
理想の山路一筋に
岩根踏みさき登り行く
健児の姿こゝに見よ
- 二、明治三十三の春
根ざしかためし花桜
ひらけゆく世に匂いつ、
学びの窓に色映ゆる
神器の徽章燦として
千代を緑の陣ヶ丘
- 三、夜半にいそしみ夙に起き
鍛錬刻苦現在を
生かして励む精神は
巖をも通す桑の弓
強く正しく明らけき
胸の楽しさ誰か知る
- 四、振り仰ぎ見る天の原
高くかゝれる先賢の
御霊の星は語らねど
若き生命に目ざめたる
無限の使命影遠し
天馬に鞭を執らむかな
- 五、行路の険難笑まひつ、
踰えよや進め大道に
やよ青春の六百人
世界の思潮震盪し
澎湃碎くる銀濤の
そこ奮闘の新天地



旧校舎全景 明治33年 初代校舎全景

旧制川辺村立実科高等女学校校歌

壽福 学 採譜

- 一 暮れてはうつる春の色
宴の庭を他所にして
楠の葉末のさゝやきも
燃ゆる希望のひびきあり
ああ南の一聖地
我が学舎をほこらずや
- 二 野辺の若草萌えたちて
ひばりの唄は雲行きぬ
諏訪にはきざす新緑の
今こそおふる若き幸
小川のほとりさまよえば
美しいかな咲くすみれ
- 三 豊かに実るちまちだに
かりがねの声すみ渡り
枝を交じえて紅葉の
錦をおりて入つ日に
輝く色は我が胸に
愛と誠のさとしあり
- 四 朝雲晴れて金色に
しじまの里を照らすとき
自然の恵み感じつつ
高鳴る胸のちしおもて
尊きのぞみ培いて
栄え行く寮を祈らばや



校舎全景

旧制川辺高等女学校校歌



バレーボール大会



昭和15年卒業生

壽福 学 採譜

一 青垣山をめぐらして

銚杉古りし飯倉の

神のみのりをたと、つつ

み国の婦道練成の

誓いも固しまごころの

教えの庭の賢さよ

二 ああ純心の胸あつく

かしこみ仰ぐ大みこと

勤労自彊 たゆみなく

道義日本の高き道

乙女われらにもにないたつ

学びの庭のたのしさよ

川辺高等学校校歌

作詞 中重 徹
作曲 種子田孝蔵

一、あ、悠遠の陽に映えて

ほのぼの明くる三州の

秀霊の気よるところ

見よや希望の陣が丘

夢美しき若人の

ここ揺籃の新天地

二、春乾坤の花の粹

一つに薫る桂木の

栄ある徽章燦として

輝く自治の旗のもと

世紀の梶をおしとりて

漕げや自由の暁の海

三、星の光は変らねど

人改まる丘の上

さらば我が友草に寝て

常盤の森の風に聞け

天籟遠く先哲の

我にもの言ふ声あらん

四、あ、青春の情熱を

傾け注ぐ川辺の

我が学舎に押し寄する

世界文化の大潮を

新たに巻きて押し返し

万里の岸を洗へかし



校章



特別寄稿

故郷の名所旧跡

知覧 金山水車かねやま (轟製錬所とどろきせいれんじよ) 跡

元南九州市教育委員会 学芸員 上田 耕

(1) はじめに

平成26年7月に南九州市知覧町郡で明治末期から昭和初期に稼働していた金山水車(轟製錬所)跡の遺構群が発見されました。約11km離れた赤石鉾山(西垂水・松山)の金・銀を製錬するための施設です。

現場は麓川湖畔にあり、鹿児島県の地域高規格道路「南薩縦貫道(知覧道路)建設に伴い鹿児島県埋蔵文



第2図 金山水車(轟製錬所)跡 明治37年~40年頃に撮影(ミュージアム知覧蔵)

化財センターが発掘調査を実施しました。調査の結果、岩盤をくり抜いて加工した水車坑と水路遺構をはじめ石垣などの伝統技術を工夫・活用した施設群で、他に類をみない近代産業遺産として高く評価されました。

その結果、道路は設計変更されて大部分の遺跡は保存されることになりました。調査後には県の史跡として指定され、さらには地元の方々の声もあって「金山水車跡インテリチエンジ」と命名されました。



第3図 赤石鉾山の露天掘り

知覧城跡や知覧麓の武家屋敷群や知覧庭園、豊玉姫神社の水車からくりで次ぐ新たな知覧の文化遺産として注目されています。

(2) 金山水車(轟製錬所)跡の調査

概要

調査地は、明治期から昭和初期にかけて、麓川の豊富な水力を用い、水車で金鉾石の製錬を行った製錬所跡として地元では通称カネヤマとして知られていました。現存する記録では、1902年(明治35年)に大日本帝国陸地測量部が測量した地図に水車記号が描かれています。1904年(明治37年)南さつま市金峰町田布施に存在した石塔庵・測々迫・常珠寺の3鉾山の製錬所として銀鉾石を製錬した。明治45年(1912)赤石鉾山の製錬所となり金鉾石を製錬し昭和10年(1935)まで稼働しました。その間、大正13年(1924)には、製錬所跡下流に水力発電所が建設され赤石鉾山と製錬所に送電が開始され、電動の製錬機具が導入されていきました。

(3) 赤石鉾山

赤石鉾山は南九州市知覧町塩屋に

所在し、金山水車(轟製錬所)跡からは南西方向は約11kmの距離にあります。

明治23年(1890)に高良祐二氏が金鉾山の露頭を発見し、赤石野岡鉾山と称して探鉾が開始されました。明治34年(1901)に製錬を



鹿児島県 南九州市



第4図 金山水車(轟製錬所)跡 麓川下流から撮影した写真、第1図にはない水車小屋2棟がみられる(ミュージアム知覧蔵)

行った記録があります(知覧村史)。その後、明治39年(1906)、宮内氏に全権利が譲渡され、明治45年(1912)、「赤石鉱山」と改称し本格的採掘に入りました。1943年(昭和18年)、「金山整備令」が公布されたが、珪酸質鉱山として赤石鉱山は存続が指定されます。昭和43年(1968)、有限会社宮内赤石鉱業所と改称されましたが、1986年(昭和61年)には操業を休止することになりました。その翌年昭和62年(1987)、宮内氏と三井串木野工業株式会社及び三井金属鉱業

株式会社とが共同鉱業権を設定し操業を再開、現在も露天掘りによる採掘を行っています。一時操業を中止していた時期もありますが、本格的採掘から現在まで約100年間の操業の歴史があります。薩摩半島西部の枕崎市から旧知覧町には南薩台地が広がっており、現在は茶畑として広く利用されていますが、この台地は約600〜400万年前の火山活動により安山岩質の火山噴出物が数百mも堆積し、南薩層群と呼ばれる地層を形成しています。

さらに地下での熱水等の作用により鉱床が形成され南薩型金鉱床と称する世界的に知られた鉱山の一つです。金鉱石は約370万年前に生成されたと考えられています。(参考資料「赤石鉱山の概要」2014・5三井串木野鉱山株式会社)

(4) 宮内家文書について

南九州市ミュージアム知覧に、宮内家の明治期から昭和までの鉱山開発に関する記録が寄託されています。この多くは、南薩地域に広がる金・

銀鉱脈を探すための試掘権の許認可申請書や採掘権の申請書、それら鉱山の鉱石を製錬する水車製錬所を造るための公有水面の利用許可申請書、また、これらに付随する鉱区図、坑道図、製錬所図、古写真です。申請書添付資料の「鉱夫扶助規則」も残されていました。また、水力発電所建設の認可申請書や設計図、それに伴う最新製錬機器図も残されており製錬工程の近代化を図っていた様子うかがい知る事ができる貴重な資料です。この宮内家文書の中から轟製錬所の当時の様相や変遷を追うことができます。また、南薩地域の鉱山開発状況の詳細の一部ですが、計画から、実際までを知ることができ近代の鹿児島県鉱業史の貴重な資料です。

(5) 伝統的な石工・大工の技術と水車動力

平成26年度の埋蔵文化財センターが行った発掘調査により、麓川から



第5図 岩盤くり貫きの水車坑

引いた石積の導水路や石垣、阿多溶結凝灰岩をくり抜いて造られた水車坑、天然の甌穴(ポットホール)を利用した排水施設など製錬所に関連する遺構が見つかりました。これらは保存状態もよく、当時の様子を伝える貴重な産業遺産であると評価され、現地に保存されることになりました。現在は遺構の保護のため、土のうを使って埋め戻しています。九州では、江戸時代から製鉄や肥料の骨粉製造、鉱石砕鉱、サトウキビ搾糖など水車を動力源にした産業が盛んにおこなわれていました。現在でも豊玉姫神社などで行われている「水車からくり」(国選択無形民俗文化財)にその技術の伝統を垣間見ることが出来ます。

【参考文献】

- 福永修一・有馬孝「金山水車(轟製錬所)跡」
- 『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(186)2016年
- 知覧町教育委員会「金山水車跡」『知覧町ガイドブック』1998年
- 上田耕ほか「清水摩崖仏・金山(轟製錬所)跡等」『南九州市埋蔵文化財発掘調査報告書』(9)
- 古写真は宮内家資料(ミュージアム知覧蔵)

陵友だより

神戈陵からの再生

昭和23年卒 田口精一

十年ぶりで迎えた稽古初日。早速、演出家と鉢合せ。笑顔で握手「大丈夫？」こちらも笑顔で「…つもりです。」横合いから「覚えられる？」無視。扉を開ける。だが腹の虫は治まらない。受けたからには責任がある。迷惑は掛けん。それから君。科白はね、覚えるんじやアない、容れるもの。そのための稽古でしよう。正面に、今回の仕掛け人と睨んだ人の笑顔、手を振った。うん間違いない。席に着く。そして、目を閉じる。

あの日、私たちはアウシユビッツに居た。過酷な展示の連続に耐え切れず、女優陣は途中で離脱した、男共も。但し、彼女だけは、後日、単身、此処を訪れている。並みの女優ではない。其処の生存者として証言台に立ち告発するのが、今回の私の役。そして、心ならず加担した独逸市民の妻が彼女なのである。幕が開

いて間もなく、ウクライナが戦場になった。

活字で綴られた人物の思考、行動を集約、我が身に移し、生きて見せるという不遜な行為を生業に拵んで七十年になる。人は、私の記憶力を話題にするが、私には、何故、体験した深い感動、感銘を忘れて仕舞うのか判らない。

戦争に負けて初めて知る真相。非国民と暴力を振るった大人どもが「俺達は騙された」と嘆く中、私たちに声を掛けた一教師の言葉は忘れ



ぼくのスケッチブック、ポーランドを描いた日より(ベンチの娘たち)

ない。「もう、戦争に駆り出され、殺されることはなくなつたんだ。好きな道を選び給え。進んで勉強するし、苦難も耐える」側には、昼抜きで買った絵具で描き上げた一枚の油絵があった。「一人でもいい、私の絵の前で、生きていてよかったア」と言つて呉れたら万才だよ」と笑う顔が眩しかった。

「感動で席を立てないって出会いが無くなりましたなア」と言われ、やがて「芸術は娯楽化した」と謂われて久しい。そして、巷ではスマホを睨めつこの人々で溢れ、マスクの人たちが急ぎ足で通り過ぎてゆく。

無事、公演が終わつた途端、身辺が忙しくなつてきた。色々教えると言う。体験を聞かせると言う。世の中の変調に気が付いた様だ。スマホの文字より、生き残りの老人の昔話に興味を持ち始めたとしたなら、まだ望みは有る。こちららも、勉強しなけりア。いま稽古場では十月上演の佐世保の戦後の物語の稽古。皆さん、パンパン、って言葉知っています？方言の底に潜む人の情愛、心根。忘れちゃアいませんか？って訳で、当分くたばる訳には…元気です。

(編集部)

田口精一さん、昭和二十三年卒の九十二歳の劇団民芸の現役の俳優です。「神戈陵」に三年ぶりに寄稿頂きました。

令和四年三月一日夕刊読売新聞の民芸の舞台合評に「新人・92歳も層厚い民芸」とあり、その一文に「裁判に出廷後に劇的な最後を遂げる証人を演じた、田口精一のただならぬ迫力に圧倒された。調べたらなんと92歳。戦時を肌で知る貴重な存在で、民芸の層の厚さを感じた。」と記されています。この作品で、民芸の「奨励賞」も受賞されています。

同級生や恩師とともに 錦江湾で船釣り

昭和41年卒 稲森 幸一

(鹿児島市在住)

現職最後の学校は、鹿児島市立清和小学校だったが、そこで思いもしない出会いがたくさんあった。地域リーダー役の校区公民館運営審議会の会長さんが同級生の霜出幸七君で、彼は学校創立からの初代PTA会長さんでもあり、地域の信頼は絶大で、おかげで学校経営にも協力をいただ

き、運営もスムーズにできた。地域の役員の中に遊漁船の船長さんがいて、その船に乗せてもらい初めて船釣りを楽しんだが、それが病み付きになってしまった。同船する者の輪も広がり、同級生や恩師にも声をかけて誘い、一緒に釣りを楽しんで来た。

恩師は、亡き橋元忠也先生ですが、何度か釣ったアジやサバを船上で刺身にさばき、出汁のきいた味噌汁を用意して食べてもらったが、「格別の美味さだ。」と、一番喜んでいた



錦江湾釣り船・桜島をバックに左から親友の寺師・山下・稲森



大物の鯛を釣り上げた

「だいた。準備当番はいつも霜出君で、おにぎりも用意してくれていた。今でも語り草になっているのがあり、先生が電動リールの操作で戸惑っていると、船長が、「学習能力がなかねー。」と茶茶を入ると、直ぐ返ってきたのは、「僕は鶴丸の校長も市の教育長もしてきた男だ。学習能力がないと言われたのは初めてじゃ。」と、笑いながらも少しプライドをのぞかせた。プライドがはつきり出たのは、鯛釣りでなかなか先生だけ釣れず、船長が「これを

クーラーに入れますから。」と2匹入れてやった後、納竿前になってバタバタと2匹釣り上げると、自分のクーラーを開け、「この2匹は返すから。俺のプライドが許さん。」と、2匹とも返却されました。

馬場節男君とは、亡くなる前の週まで一番多く何度も同船したのが、今は、山下明世君と寺師慶志君と3人で、月に1・2回潮を見て、連絡を取り合い乗船している。

錦江湾では、1年を通して、アジやサバ、タイ釣りを中心にしているが、季節によりイサキやハタ、ヒラメ、ブリ、カンパチなど多種多様な魚が釣れる。船釣りの魅力は、桜島を仰ぎながら潮の香にも触れ、いつ来るかわからない竿先をじつと待つ時間である。突然に竿先が海面下に引き込まれ、シヤクって、獲物の重みを手にする瞬間の感触は何ともいえない。大物になると、竿を立てリールのダイヤルを入れても巻き上げられず、それからが獲物との格闘になる。やりとりをしながら、三段引きだと大鯛、走り回るようだとブリ、カンパチの青物である。魚も疲れて海面に姿を見せ始めると、タモ網を入れて引き上げるまでが勝負で

油断がならない。何度途中で仕掛けを切られたりして悔しい思いをさせられたことか。逃がす獲物は大物ばかりで、悔しくて夢に出てくることもあった。これまでの最大の釣果は、85センチ、7キロ余の大鯛を釣り上げ、魚拓にして飾ってある。

船長は、釣れない時の3人のぼやきや嘆きを聞き、「この同級生の掛け合いは、吉本を聞くより面白か。しかし、最高の仲間じゃっどなあ。」と笑いながらも感心している。



今まで最大の魚拓



竹屋神社豊祭奉納

「故郷の祭り」

太鼓踊りの思い出

川辺勝目上山田太鼓踊り

平成六年卒 有村公美子

記録的猛暑といわれた今年の夏も過ぎ、街中が秋めいて来ました。秋の楽しみはいくつもありますが、私は子供のころ太鼓踊りを見るのが楽しみでした。思い出を交えながら、私の地元で伝わる上山田太鼓踊りを紹介したいと思います。

南九州市川辺町の南部に勝目という地区があります。この勝目地区は上山田・中山田・下山田に分かれて

いて、それぞれの地域に太鼓踊りが伝わっています。この太鼓踊りは中山田にある竹屋神社の10月19日の豊祭に奉納する豊祭踊りです。昔は毎年奉納していたようですが、今では上山田・中山田・下山田西・下山田東の4地区輪番制で4年に一度奉納するようになったそうです。

踊りの起源は文禄の役・慶長の役の時に島津軍に従軍した山田郷(勝目地区)の武士たちの「出陣」「帰陣」「凱旋」の様子を表しているといわれています。上山田の太鼓踊りは出陣の踊りと言われており、とても勇壮な踊りです。

奉納の時は藁振りを先頭に入入り、脇太鼓が出陣の踊りらしく激しく踊り、奉納後は1日かけて各地域を踊り歩きます。公民館等で集落の方が受け入れの準備をしていて、踊り手に煮しめやおにぎり、酒などが振舞われていました。元気に踊って厄を払い、1年間の無病息災と豊年を



川辺ダム竣工記念奉納

祝っていました。

上山田太鼓踊りは鹿児島県指定の無形民俗文化財です。踊り手は18歳以上の成人男子が務め、引退の年齢は特に決まっていませんが60歳位まで踊っているようです。踊り手の構成は先に述べたように「藁振り」「中入り」「脇太鼓」です。藁振りは4〜6人の偶数で師匠格の方が務めます。頭に笠を被り、浴衣に脚絆、足袋、草履というスタイルで手にはその年に収穫した藁を束ねて作ったワラシベを持って踊ります。私が子供の頃は祖父が藁振りをしていました。誰よりも勇壮に踊っていて自慢でした。中入りは鉦2人・小太鼓2人の4人です。花笠を被り、女性物の

の振袖を着て踊りますが、踊り手は男性なので、下から花笠の中を覗き込んでびっくりした記憶があります。叔父が中入りを務めていたことがあります。脇太鼓は30人位(最低18人)の偶数で、さらしで作った鉢巻きをし、浴衣に脚絆、足袋、草履というスタイルで背中に色とりどりの紙製の飾りをつけた刀や薙刀を3本差して踊ります。上山田は出陣の踊りなので刀や薙刀は峰側が黒く、刃こぼれもない新しい武器を表現しています。最近まで父は脇太鼓を踊っていました。

次の奉納時期に帰省できれば、久しぶりに見たいと思っています。



川辺清水摩崖仏祭奉納



頭にのせる釜蓋。アベック二人でのせる釜蓋は大きいサイズ。

必勝祈願・恋人同士の恋愛結婚成就の方の参詣で、密かに賑わっています。「釜蓋願掛け」で祈願成就を頂くのに、**大変な試練**があります。神社の鳥居の下から釜蓋を頭に乘せ、階段を上り、釜蓋が頭から落ちないようにソロリソロリとバランスとりながら参詣場所のお賽銭箱の前まで行けたら成功で、祈願成就となります。失敗しても、何回もチャレンジするこ

とが大事なのです。アベックの場合には大きな釜蓋を頭の高さを調節しなければならぬので困難を伴います。成功すれば、喜びは何倍にもなります。なでしこジャパンの澤穂希選手・GKの福元選手も参詣され、オリンピック・ワールドカップで大活躍され銀メダル・優勝を勝ち取りました。その他、ガッツ石松選手・中村俊輔選手など多くの著名人の参詣を頂いています。



希望の岬より開聞岳を望む。釜蓋の形したベンチがある。

薩摩半島の南端、南九州市穎娃町の大川海岸の突き出た岩礁に小ぶりで朱色の釜蓋神社が鎮座しています。地元はもちろん全国的にも知る人ぞ知る、パワースポットです。ご祭神(射楯兵主へいたてつわものぬし)神社)は、古くから武士道の勝負の神様・戦場で敵の鉄砲の弾

に当たらないとか・当然に開運厄払いなど何でもご利益があると言われてきます。そのため「釜蓋願掛け」として、戦時中は私の集落の婦人会では皆さん子供ぶつて・下駄履いて、片道20kmの道のりを朝暗いうちから夕方暗くなるまでご参詣されていたそうです。今はスポーツ選手の



女性二人が釜蓋を頭にのせて参詣している。ソロリソロリと!

(釜蓋神社を紹介するにあたり、南九州市観光協会より資料・写真をご提供いただきました。有り難うございました。)

の折は、是非お立ち寄りください。(釜蓋神社を紹介するにあたり、南九州市観光協会より資料・写真をご提供いただきました。有り難うございました。)

「故郷の旧所巡り」

釜蓋神社

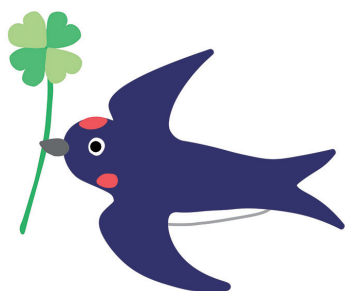
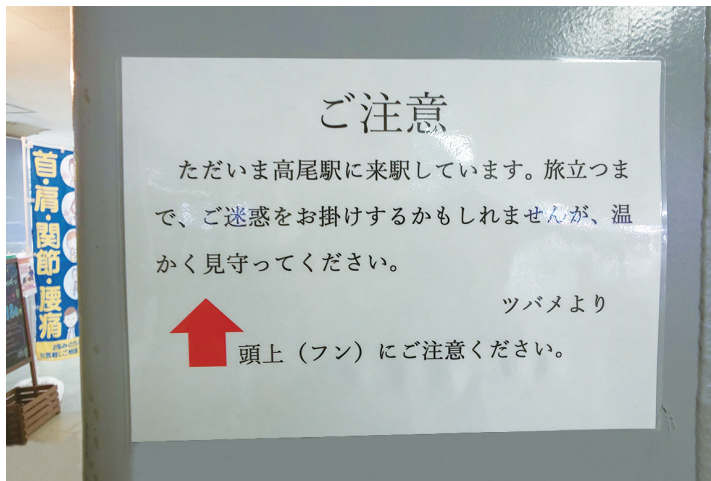
「オリンピック選手も必勝祈願で参詣する」「勝負の神様」

(編集部)

「が参詣して以来、仕事が増えたり」といふ!!それは、「オカマツながり」でかなー?と云われているとか言われていないとか?朝日テレビのナニコレ珍百景でも「お釜で参拝する神社」として、全国に放映されています。

釜蓋神社の周辺の海岸線は、風光明媚なところがたくさんあります。釜蓋神社の裏手の希望の岬・伊能忠敬が「天下の絶景じゃ!!」と唸った番所鼻自然公園・その中に国内唯一のタツノオトシゴの観光養殖場のタツノオトシゴ館・伊勢海老の美味しいホテルなど、素敵な所です。帰郷の折は、是非お立ち寄りください。

私の作品展



「私の作品展」

昭和52年卒 中原信寛

高尾駅のツバメ

高尾駅にツバメが住み始めていて
急がない時間を過ごしている
いつもは気が付かない光景に出会えて

そんなツバメをのどかに見ていられるのは
ヒトに所属する私が
安全な場所にいるからだと思う

我々が暮らしている街は
彼らツバメ達にとって
住みやすい場所なのだろうか

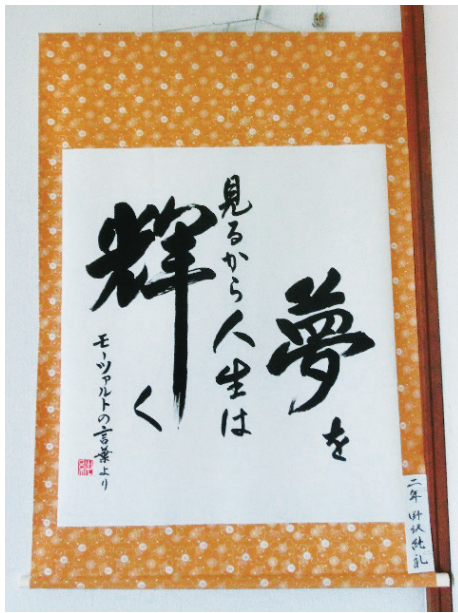
ツバメの巣にヒナ鳥の姿は見えない
きつと元気に飛び立ったのだろう
高い空へ広い空へ
狭い巣から抜け出して

母校書道部の生徒作品

令和3年12月27日(月)〜令和4年1月11日(火)に、本校書道部が鹿児島水産高校の書道部と一緒に鹿児島空港の迎春装飾を担当しました。下記の①②③の作品は、その期間中に空港内に展示した作品です。

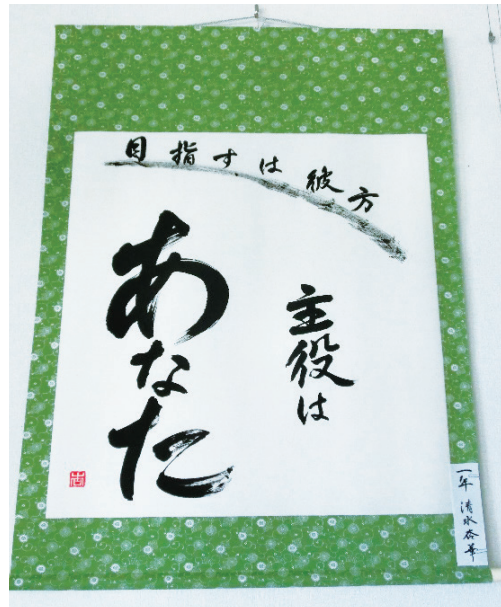
① 3年(当時2年) 野沢 純礼

「夢を見るから人生は輝く
〜モーツアルトの言葉より〜」



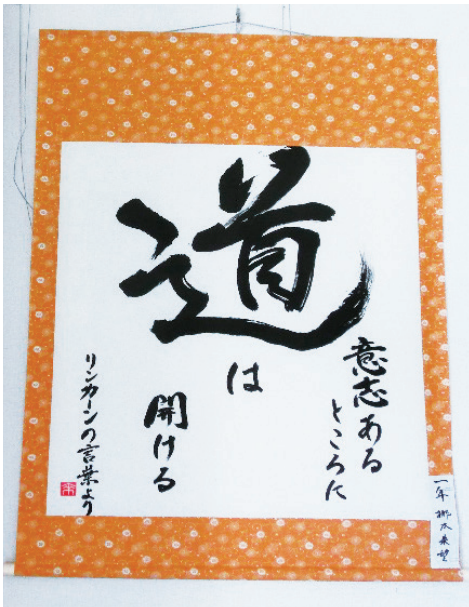
② 2年(当時1年) 清水 杏華

「目指すは彼方 主役はあなた」 ↑自作句です



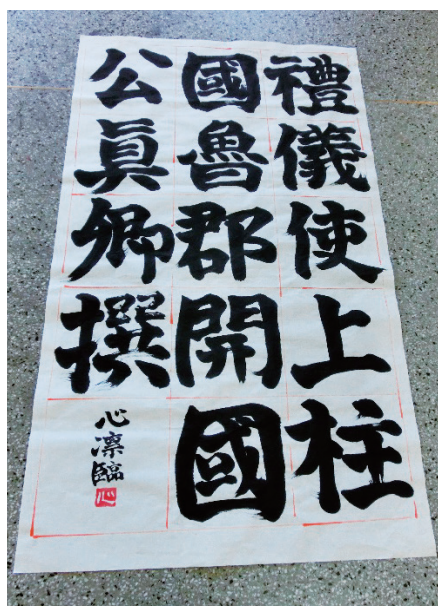
③ 2年(当時1年) 柳木 来望

「意志あるところに道は開ける
〜リンカーンの言葉より〜」



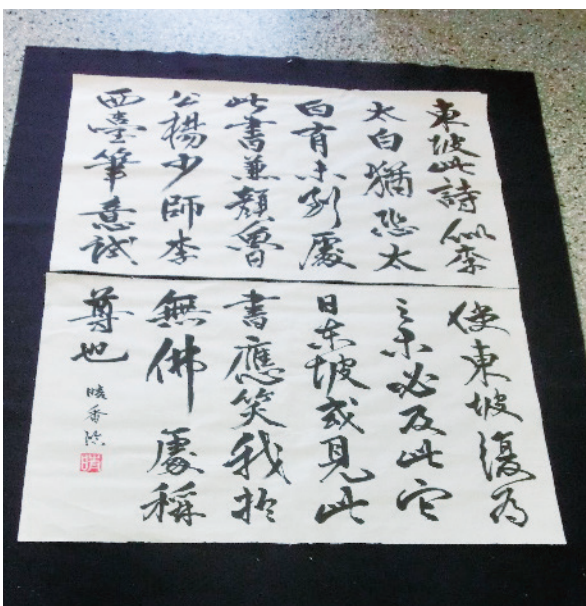
④ 1年 有田 心凜

顔氏家廟碑(がんしかびょうひ)



⑤ 1年 西村 晴香

黄州寒食詩卷跋(こうしゅうかんしょくしかんぱつ)



神戈陵 俳壇・歌壇



【俳句】

前橋 竹之(昭和二五年卒)

- 一. 胸に栖む戦禍の夜のほととぎす
- 二. 焰めく火山灰降る街の海紅豆
- 三. 滝壺に一輪挿しの滝の立つ
- 四. 遊ぶ子の路地の奥まで夕焼けたり
- 五. 団扇よりねむり始むる腕枕

大平 政弘(昭和三四年卒)

- 一. 老夫婦雪払ひ合う医院前
- 二. 湯の街に音を沈めて雪の積む
- 三. 江ノ島に鷗の円舞春の昼
- 四. 通し土間一直線に燕過ぐ
- 五. 夏霧や森に白亜の美術館



森山 昭利(昭和四一年卒)

- 一. 五輪の地人影空し赤とんぼ
- 二. 風と遊び水面で終わる花の舞い
- 三. 朝まだきしじまを破る鶉の聲
- 四. 青空に三日月を描く球白し
- 五. 虫の音に歩み緩めて回り道

橋本起世子(昭和四一年卒)

- 一. 電車待つ大寒の空澄み渡り
- 二. 友と会い愛でた梅の香源平咲き
- 三. つゆ葵咲きほころびてお日様のぞく
- 四. 草花もほっと一息戻り梅雨
- 五. 虫時雨眠れぬ夜に音楽会




神戈陵
俳壇・歌壇


【川柳】

森山 昭利(昭和四一年卒)

- 一. おいコロナ3年経ったぞもう来るな
- 二. いつの間に粟花落つとはつゆ知らず
- 三. 岩も無く森を揺るがすせみ時雨
- 四. 鴨の尻らこけつまろびつ親の後
- 五. マスクして花笠かぶる夏祭り

有蘭 茂矢(昭和四五年卒)

- 一. 扇状を戦場なりと雨が降る
ウクライナでは弾が降って悲しい
- 二. 雨蛙鳴くを後悔雨やまず
下手に雨乞いすれば、度をこす
- 三. 五月雨や濡れて佇む京をんな
「をんな」と(おんな)はちがう
- 四. 降れば降る降らずが降りてまた降りぬ
異常気象? ちょっと遊んでみました

【短歌】

橋本起世子(昭和四一年卒)

- 一. 夕暮れに家路を急ぐ足元に
奏でる音色秋の訪れ
- 二. 雨上がり小鳥が一羽空見上げ
雲の彼方に想いを馳せる
- 三. 秋を待つ上野の杜の銀杏並木
大道芸の歓声響く



母校だより

母校同窓会係教諭 内菌和浩

令和4年も依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続いており

ます。一日遠足や文化祭といった学校行事や南薩地区大会、高校総体県予選、九州大会、高校総体等の校外行事は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、参加者の制限をかけた上で開催されております。学校においては、新型コロナウイルス感染症対策として、毎日の検温と健康観察、手洗いの徹底、換気の実施、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保等が日々行われております。

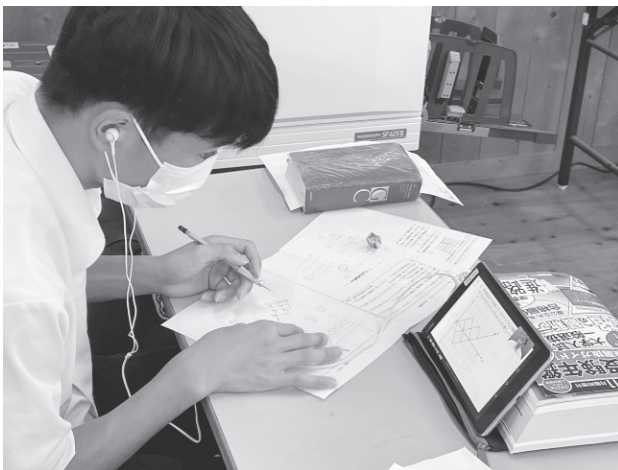
さて、夏季休業中の川辺高校の様子をお知らせいたします。令和4年度の夏季補習は、7月21日(木)～7月29日(金)と8月18日(木)～8月29日(月)に行いました。放課後には、同窓会のご尽力により建設された施設(尚学舎)を各学年で活用しております。3年生は、休日も含めて多くの生徒が、自分の進路実現に向けて、尚学舎で集中して学習に取り組んでおります。また、1・

2年生は、120周年記念事業で導入したタブレットを尚学舎で使用し、自分の興味関心のある上級学校の先生方の講義の動画等を視聴したり、自分の進路についての探究を深めたりしております。

また、この期間は学習だけでなく、部活動にも時間をかけられる時期です。ほとんどの部は、2年生を中心にした活動をすでに始めており、秋の新人戦に向けてしっかりと練習を重ねながら、個々の技術を一層向上させています。ただ、生徒数の減少により、学校単独チームとして出場できる部活動が少なくなっております。そのような状況ではありますが、練習試合や合同練習等に参加することで、学校の練習では学べないことも習得しています。

ボランテニア活動等を始めたとした様々な校外活動への生徒の取り組みについてですが、

7月24日(日)に3年ぶりに開催された「川辺祇園祭」には、多くの生徒がボランテニアとして、行事の準備や運営等に参加しました。2年生の中には、8月に行われた夏トライ・グレード・アップ・ゼミに、尚学舎で、Zoomを用いて参加した生



夏トライ・
グレード・アップ・ゼミに、
Zoomを用いて参加した
2年生の様子



川辺高校創立120周年記念式典等につきましては、令和3年11月20日(土)に開催いたしました。新型コロナウイルス感染症防止のため、関係者のみが出席しての式典になりましたが、無事終えることができました。記念式典の実施に際しまして、ご協力をいただきました皆様には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

〈お知らせ〉

徒もおります。また、外部検定試験(英語検定、漢字検定、数学検定)を受験して、自分の進路実現につながる資格取得に取り組んでいる生徒も数多く見受けられます。

このように、生徒は自分の将来を見据え、さまざまなことに真剣に取り組んでおります。今後とも母校・後輩へのご支援をよろしく願います。

なぎなた部についての連絡

全国高等学校総合体育大会のなぎなた競技が、8月12日(金)～8月15日(月)に香川県丸亀市で行われました。

個人試合の部で、3年の迫莉々権が5位に入賞し、また演技競技の部で、3年の上牧大佳・迫莉々権のペアが3位に入賞しました。



表彰式 (左側が上牧、右側が迫)



演技競技の部

(手前の左側が迫、右側が上牧)

2人の入賞を祝して、学校で作成した懸垂幕と看板



看板 (上に設置してあるのが今回の大会関係の看板です。)



懸垂幕・・・今回の大会関係の懸垂幕は右側です。



森田建設(株)

代表取締役 **森田 剛**(S43卒)

川辺町上山田4330
TEL.0993-57-3321
FAX.0993-57-3323



株式会社 **加覧組**

代表取締役 **新谷 昭彦**
(S59年卒)

〒897-0213
鹿児島県南九州市川辺町小野1184
TEL 0993-56-0321
FAX 0993-56-2173

関東知覧会

今年の総会は延期となりました。
次回の開催時は親戚・知人の
皆さんをお誘いください。

古い町並みに心やすらぐ町
平和の尊さを語りつぐ町

会長 **前原 東二**

川辺高校出身者 役員紹介

- 大平 政弘**(S34)
- 峯苦 稔三**(S41)
- 緒方むつ子**(S41)
- 井尻 啓子**(S41)
- 佐多ふく子**(S41)
- 三宅 保弘**(S54)
- 瀬戸口欣宏**(S55)

連絡先 136-0073 江東区北砂1-4-16-603
事務局 副会長・幹事長
尾曲 正孝 090-8854-3263

関東さつま川辺会

第30回総会(記念大会)は、
令和5年3月12日(日曜日)グラン
ドヒル市ヶ谷にて開催の予定です。
来年早々に、案内状を発送します。
ぜひ、友人・知人とご参加下さい。

- 会長 **川野 博一**(昭和37年卒)
 - 副会長 **東 昭雄**(兼任)
 - 副会長 **吉留 浩一**(兼任)
 - 会計監査 **野間 善治**
 - 会計監査 **大平 キヨ子**(昭和37年卒)
 - 幹事長 **東 昭雄**
 - 副幹事長 **草原 陸雄**
 - 副幹事長 **内村 哲也**(昭和50年卒)
 - 事務局 **田中 勝之**(昭和56年卒)
 - 事務局 **有村 公美子**(平成6年卒)
- (〇年卒)は川辺高校卒業年)

連絡先 〒181-0005 三鷹市中原3-8-30
事務局長 **吉留 浩一** (0422-26-7065)

南谷綜合法律事務所

- 弁護士 **南谷 知成**(昭和36年卒)
- 弁護士 **南谷 敦子**(長女)
- 弁護士 **南谷 博子**(三女)
- パラリーガル **西 真由子**(平成17年卒)

南谷朝子公認会計士事務所

公認会計士 **南谷 朝子**(二女)

〒810-0041
福岡県福岡市中央区大名1丁目8-10
福岡安藤ハザマビル 5F
TEL : 092-724-1113
<http://minamitani-law.jp/>

みなみにひろたか

南谷洋至法律事務所

弁護士 **南谷 洋至**
(昭和49年卒)
金峰町白川・阿多中出身

Empty your mind. Be water, my friend.
天籟遠く先哲の我にも言ふ声あらん

〒810-0041 福岡市中央区大名一丁目8番12号
第二西部ビル3階・南谷洋至法律事務所
TEL 092-736-1531 FAX 092-736-1533
(川辺高校福岡同窓会事務局)

ENEOS株式会社特約店
三井住友海上火災保険株式会社代理店
東京海上日動火災保険株式会社代理店

株式会社 前野石油 株式会社 前野設備

代表取締役会長 **前野 政美**
代表取締役社長 **前野 耕作**

- 石油事業部 ■ガス事業部
 - 車販・太陽光事業部
 - 住宅関連事業部 ■損害総合保険事業部
 - 車検事業部 ■車検・板金センター
- (国土交通省運輸局指定工場 指定番号 鹿-885)

本社 〒897-0211 鹿児島県南九州市川辺町両添1026
TEL0993-56-1336(代) FAX0993-56-3983

昭和38年卒の皆さん

コロナ禍で3年間のご無沙汰です。

来年の総会・懇親会

(令和5年5月20日土曜日)

皆さん元気に再開しましょう。

昭和38年卒有志

皆様的一段のご健勝をお祈り申し上げます

前会長

小原 東洋明

(昭和38年卒)

会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

元会長(昭34年)大平政弘

〒247-0025 横浜市栄区上之町 47-16

電話 : 045-891-0197

ミネ・アニマル ヘルス

獣医師 峯 苦 稔 三
(41年卒)

家畜の病気を予防し、安心・安全な畜産物の生産に取り組んでいます。

〒300-1622
茨城県利根町布川454-180
電話：090-2440-7109

S41年卒のよかおごじよ よか二才さん達へ

令和5年5月20日(土)に同窓会総会・懇親会を予定しています。コロナに打ち勝ち元気で再会しましょう。

みんな、オジャツタモンセ!!
(昭和41年卒・役員一同より)

シモ動物病院

院長 霜 出 幸 七
(41年卒)

愛犬・愛猫の病気の予防治療に、ご利用ください。

〒891-0113
鹿児島市東谷山3-36-11
電話 099-267-5959

知的創造

げんせいこんげん
源泉混濁として、
昼夜を舍かず。
科に溢らして
しみる後に進み、
四海に放る。
(五十一年 離世下よし)

小社は学校の教材や書籍、チラシなど印刷物全般を専門に、千代田区で創業以来、本作りの専門会社です。自社で入力から製本まで一括で出来るからこそ、安価でご提供させて頂いております。

企画編集から製本まで 自費出版大歓迎!! カラー名刺・絵ハガキ・封筒・ポスター・横断幕 小部数でも安価でできます ご相談下さい

Eishin 株式会社 盈進社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-5-7 東専堂ビル5F
TEL 03-3262-3471代 FAX 03-5210-7226
Eメール : info@eishinsya.co.jp

相続に関するご相談!

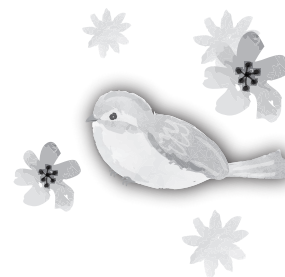
・親子、兄弟姉妹で
円満相続

ライフプランナー
ファイナンシャル・プランナー(日本FP協会会員)

内村 哲也

(昭和50年卒)

東京都品川区大崎1-11-1
グートシティ大崎ウエストタワー
ブルデンシヤル生命保険株式会社
首都圏第1支社
TEL: 03-6675-9837
携帯: 090-4962-1820



昭和40年卒業の みなさんへ

皆さん集まって、
あしたからの青春を語ろう!!

今を青春にしましょう!!
これからの人生をもっと楽しく豊に!!

第47回総会懇親会
2023年5月20日(土)
ホテルグランドヒル市ヶ谷



第41回総会懇親会より

[昭和40年卒有志]

昭和45年卒業の皆様方へ!!

第46回総会が、令和4年6月4日に、グランドヒル市ヶ谷にて開催されました。45年卒業の参加者は3名でした。コロナ感染の不安もあり、参加を促す活動はしませんでした。令和5年の総会が問題無く開催される事を祈り、多数の御参加をお願いします。

身体に少しでも不具合が生じたらすぐにケアを!!

われら神戈陵同窓生

われら神戈陵同窓生
コロナ禍の中、3年ぶりの同窓会の楽しい思い出
にしてください。

田中勝之 (昭和56年卒)



昭和27,30年卒



昭和32年卒



昭和34年卒, 盈進社 下園社長



昭和36,40,45,46,47年卒



昭和41年卒



昭和43,44,45年卒



昭和32,43,49年卒



昭和46,47年卒

われら神戈陵同窓生



昭和48年卒



昭和43,45,49,52年卒



昭和50年卒



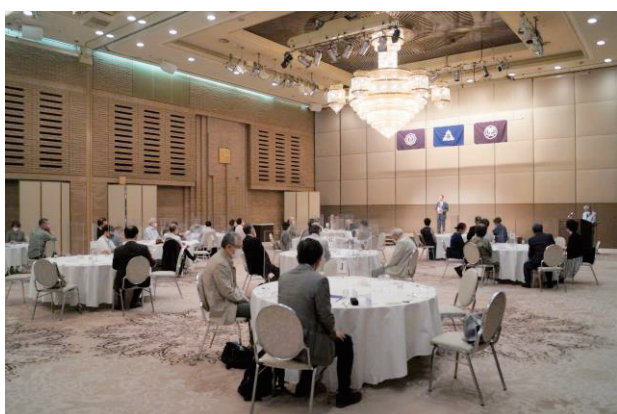
昭和56,59年,平成6,9年卒



アクリル板で仕切られたテーブル



感染対策しながら受付



新会場で総会スタート



懇親会は一本締めで終了

事務局からのお知らせ

総会、3年ぶりに開催！

第46回川辺高等学校東京同窓会総会・懇親会が、6月4日にホテルグランドヒル市ヶ谷で3年ぶりに開催されました。総会・懇親会には、会員51名のご出席をいただきました。入場する時に検温して座席の円卓は隣とパーティションで区切られているという、今では見慣れた光景でしたが、皆さん再会をとっても楽しんでお話されていました。振り返りますと今年の6月は幸いコロナの感染流行が落ち着いている時期でしたので、当日も問題なく進めることができて幸いでした。

- さて、総会での付議事項は
- 1. 第5期 川辺高等学校東京同窓会 会務報告
- 2. 令和3年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告と監査報告

年会費について

東京同窓会は会員の皆様からいただいた会費で運営されています。いつもご支援をいただき、有り難うござ

ざいます。

今後とも皆様の会費の納入にご協力何卒よろしくお願い申し上げます。

会員のつながりを

これからも大事に

会員の減少が進んでいます。ますます、貴重なつながりとなってきています。これからも会員の発掘をづけていきたいと思えます。ご縁のある同級生、先輩後輩等がいらっしやいましたら東京同窓会のご案内ください。

母校の今

入学者数が減り昨年度の1年生は1クラスでしたが本年度は2クラスになりました。

昨年は他校との合同チームだった夏の高校野球も今年は単独チームで出場できました。

コロナ禍で生徒も先生たちも大変だと思えます。この困難を大きな経験として学生生活を送り乗り越えて頑張つて欲しいと思えます。

高校のプログで色々見ることがで

◆ 令和3年度 川辺高等学校東京同窓会 会務報告 ◆

令和3年 5月 3日(月)	第44期会計監査 (関師田、有馬、岡本)	
	5月29日 (土) 第45回書面表決総会の案内状発送作業	
5月31日(月)	第45回書面表決総会の案内状発送	
6月30日(水)	書面表決総会開催	
	第1号議案：第43期と第44期会務報告	可決
	第2号議案：第43期会計報告と会計監査報告	可決
	第3号議案：第44期会計報告と会計監査報告	可決
	第4号議案：会則の一部変更案	可決
	第5号議案：第45期～第46期役員改選案	可決
7月 2日(金)	総会の表決結果 (ハガキ) 発送	
7月21日(水)	令和4年総会・懇親会 (6月4日) の会場仮予約 ホテル グランドヒル市ヶ谷	
8月 3日(火)	令和3年10月関東知覧会の総会・懇親会中止連絡	
9月 4日(土)	母校「神戈陵祭体育祭」無観客での開催	
9月11日(土)	神戈陵第45号校正会議	
9月21日(火)	本会事務局所在の「株式会社 盈進社」移転	
10月30日(土)	評議員会、神戈陵第45号発送	
11月21日(日)	母校創立120周年記念式典 (関係者のみ出席)	



役員改選の件

令和4年6月

第45期～第46期 役員（敬称略）

役 職	氏 名	卒業年度	備 考
会 長	森 山 昭 利	昭和41年	
副 会 長	峯 苦 稔 三	昭和41年	
	川 原 修 二	昭和45年	
	中 原 信 寛	昭和52年	
	松 永 郁 代	昭和40年	
	橋 本 起 世 子	昭和41年	
	岡 本 伊 津 子	昭和43年	
	椎 原 直 子	昭和48年	
幹 事 長	山 本 朗	昭和48年	
副 幹 事 長	内 村 哲 也	昭和50年	
事 務 局 長	林 昭 子	昭和50年	
副 事 務 局 長	田 中 勝 之	昭和56年	
事 務 局 員	上 塩 入 浩 一	昭和63年	
	有 村 公 美 子	平成06年	
会 計 監 事	凶 師 田 格	昭和47年	
	有 馬 洋 二	昭和44年	
幹 事 会 計	岡 本 伊 津 子	昭和43年	
	蔵 元 明 洋	昭和49年	
顧 問	鯨 坂 悟 郎	昭和32年	
	大 平 政 弘	昭和34年	
	小 原 東 洋 明	昭和38年	
幹 事	大 坪 剛	昭和32年	
	千 葉 美 代 子	昭和34年	
	川 野 博 一	昭和37年	
	松 山 満 芳	昭和37年	
	堂 園 俊 秋	昭和38年	
	鳥 海 睦 子	昭和38年	
	深 井 麗 子	昭和40年	
	佐 藤 妙 子	昭和44年	
	菊 永 道 昭	昭和45年	
	高 倉 都	昭和46年	
	川 平 悦 郎	昭和47年	
	内 原 健 一	昭和48年	
	中 藺 幸 男	昭和50年	
	畠 中 耕 一	昭和50年	
	下 之 藺 ル リ 子	昭和51年	
	渡 辺 淳 子	昭和52年	
	堂 園 孝 美	昭和54年	
	樋 渡 信 也	昭和55年	

きます。検索してアクセスしてみてください。
 来年は、卒業して関東の学校で頑張っているみなさんにもぜひ参加していただきたいです!!
花火大会
 地元川辺では3年ぶりに夏の花火大会が開催されました。

幸い天気も良かったとのこと、外に出てみた方も多かったようです。コロナが落ち着き注意しつつもこうしたイベントもできるように頑張っていくことを期待したいですね。
次回開催を楽しみに!
 コロナ禍で色々な制約の中で過ごされていることと思います。運動不

足になりがちで体調管理も大変ですね。田舎の方でも友人同士、同級生同士のコミュニケーションが難しいことと思います。リモートお茶会・リモート飲み会のようなことで距離を超えてお話しする機会も作れますので、同級生たちと連絡とってみてはいかがでしょうか?
 皆様くれぐれも体調にお気をつけ

てください。
 そして、次回、総会・懇親会が開催され、多くの皆様と再開できることを願っています。
 お元氣にご参加されることをお待ちしております。



第47回

総会・懇親会のご案内

令和5年の総会・懇親会をご案内します。

但し、新型コロナウイルスの感染・流行の状況により、内容の一部変更または開催を中止もあり得ることを予めご承知ください。

- (1) **開催日：2023年5月20日(土)**
- (2) **時 間：午後12時～15時**
- (3) **場 所：ホテルグランドヒル市ヶ谷**
(JR市ヶ谷駅より徒歩5分と近いです)

多くの会員の皆様のご参加お願いいたします。
昭和53年卒がメインの担当年度幹事、43年卒と63年卒の皆さんは補助として総会・懇親会の円滑な運営にご協力お願いいたします。

なお、最終案内は、令和5年2月に発送予定です。



◆ホームページについて
 東京同窓会開設しているホームページがあります。総会の時の写真をアップしています。また、そのほか、高校のホームページなどありますのでご案内いたします。
 是非、覗いてみてください。

川辺高校東京同窓会ホームページ

<http://kawanabe-hs-tokyo.com/>



フェースブック：ページ名

「川辺高校 東京同窓会FBコミュニティ」



川辺高校ホームページ：

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kawanabe/>

川辺高校公式ブログ：

<http://kawanabe.edu.pref.kagoshima.jp/>



令和3年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

自：令和3年 4月 1日
至：令和3年12月31日

収入の部	金額	支出の部	金額	
年会費収入 189名	304,000	総会関連費 (総会案内中止含む)	218,723	
寄付金 81名	274,000	会報誌関連費	545,774	
会報誌広告収入 14件	170,000	会議費(会場費)	19,700	
会議費(会場費戻り)	6,500	通信関連費	2,430	
ゆうちょ利子	4	雑費	55,240	
		手数料(振込料・郵送通知等)	48,777	
前期繰越金	888,905	翌期繰越金	752,765	
		ゆうちょ		339,720
		振替口座		356,226
		現金	56,819	
合計	1,643,409	合計	1,643,409	

上記の件、監査の結果相違ありません。

令和 4 年 4 月 2 日

会計監事

圖師 日 格

会計監事

有馬 洋二



編集後記

中原信寛 (昭和52年卒)

たとえ暑い夏であっても
焼酎はお湯割りが旨い

つまみにはさつま揚げが一番合う
真空パック入りでも構わない

ずっと南の小さな田舎に生まれ
まだ若い頃に都会に出て来て
ハイカラな酒もずいぶん飲んだ

それでも味覚は田舎育ちのままだ

歳を取ってしまった今

故郷の味を恋しく思うのは
しばらく帰っていないからなのか

今すぐにも鹿児島に帰って

幼友達が自慢する郷土料理屋で
さつま揚げと鳥刺しとトンコツと

懐かしい鹿児島弁をBGMにして
ただのぼっけもんになりたい

来年の同窓会は5月20日です

ぼっけもんとよかおごじよに
なりたい人は是非来て下さい

編集者

森山、川原、松永、橋本、山本、
内村、中原、田中、峯苦





ドローンで空撮した、現在の母校の全景